

**～あなたの生活に役立つ情報が満載の新潟鍼療センターからのたよりです～**

新潟鍼療通信





こんにちは、院長の山田です。春の陽射しが心地よい今日この頃、皆さんいかがお過ごしでしょうか？さて、4月13日から半年間、大阪で「**2025」**が開催されます。EXPOは「博覧会」や「展覧会」という意味の言葉です。日本では**「万博」**と呼ばれていますが、**正式名称は「国際博覧会」。**複数の国々が参加する大規模な万博は、**1851年のロンドンのハイド・パーク**で開催されたのが始まりです。当時、メインとなる会場のデザインが決まるまでには、ずいぶん紆余曲折あったそう。コンペを開催したり委員会がデザインを出したりしても良いデザインが決まらない中、提案されたのが最終的に採用された**「水晶宮（クリスタルパレス）」**でした。**鉄とガラスで構成される明るく近代的な建物**は、当時の最先端技術で作られたもの。現在では白黒写真でしか姿を見ることができませんが、会場となった公園の**大樹を建物の中に残す仕様**にするなど、**ユニークかつ繊細な建物**だったようです。わずか**10か月足らずで完成**したこの建物は、なんと移設も可能な仕様になっており、万博終了後、解体を惜しむ声に応えてロンドン郊外に移設されました。**1862年の第2回ロンドン万博に出席した福沢諭吉も移設先を訪れた**んですよ。日本が万博に初めて展示を出したのは**1867年のパリ万博**ですが、この**第2回ロンドン万博**にも、**日本の工芸品**などが展示されました。初代駐日イギリス公使だったオールコックが、自分の収集品を展示したんだそう。当時のヨーロッパでは、日本の文化に触れる機会はほとんどありませんでしたから、福沢諭吉たち日本の使節団や展示された工芸品は、ずいぶん珍しがられたようです。その後、**1873年のウィーン万博**で、日本は**初めて政府として万博に公式参加**しました。さらに、約100年後の**1970年には、大阪が万博の開催地**に

選ばれています。当時建設された**「太陽の塔」**は、今も**万博記念公園のシンボル**になっていますよね。

過去の万博の様子を振り返ることで、当時の人々の暮らしや最新技術、未来への展望がうかがえます。

これは私たちの生活でも変わりません。将来、懐かしく振り返れるように、毎日を充実したものにして

いきたいですね。それでは、今月も笑顔で元気に過ごしましょう！　新潟鍼療センター院長　山田敏夫

発行/ 新潟鍼療センター 〒950-0087　新潟市中央区東大通2-10-13　　☎025-244-1189

ホームページ　http://hari-niigata.com 　　　　　　　　　Ｅメール　hariniigata@sky.plala.or.jp